消火器操法・屋内消火栓操法
【実施要領】



富士市防火協会

目　　次

(ページ)

【総則】
1　目的　・・・・・・・・・・・・・・・　1
2　審査要領
（1）審査の要点
（2）採点方法等
（3）順位
（4）競技の事前準備
（5）異議申立て

【消火器操法】
1　概要　・・・・・・・・・・・・・・・　3
2　競技要領
（1）集合から開始まで
（2）指揮者操作要領　・・・・・・・・・・・・・・・　4
（3）消火者操作要領　・・・・・・・・・・・・・・・　6
（4）終了、解散　・・・・・・・・・・・・・・・　7
消火器操法競技コース図　・・・・・・・・・・・・・・・　8
消火器操法指揮者審査表　・・・・・・・・・・・・・・・　9
消火器操法消火者審査表　・・・・・・・・・・・・・・・　１０
消火器操法採点表　・・・・・・・・・・・・・・・　１１

【屋内消火栓操法】
1　概要　・・・・・・・・・・・・・・・　１２
2　競技要領
（1）集合から開始まで
（2）指揮者操作要領　・・・・・・・・・・・・・・・　１３
（3）１番員操作要領　・・・・・・・・・・・・・・・　１５
（4）２番員操作要領　・・・・・・・・・・・・・・・　１６
（5）放水やめ、おさめ　・・・・・・・・・・・・・・・　１８
（6）終了、解散　・・・・・・・・・・・・・・・　１９
屋内消火栓操法競技コース図　・・・・・・・・・・・・・・・　２１
屋内消火栓操法指揮者審査表　・・・・・・・・・・・・・・・　２２
屋内消火栓操法１番員審査表　・・・・・・・・・・・・・・・　２３
屋内消火栓操法２番員審査表　・・・・・・・・・・・・・・・　２４
屋内消火栓操法採点表　・・・・・・・・・・・・・・・　２５

附則　・・・・・・・・・・・・・・・　２６

消火器操法・屋内消火栓操法実施要領

【総則】

1　目的

この実施要領は、消火器操法及び屋内消火栓操法に係る事項を定め、もって富士市防火協会に加盟する事業所等における火災発生時の迅速かつ確実な初期対応に資することを目的とする。

2　審査要領

（1）審査の要点

ア　迅速、確実な動作

イ　士気及び規律

ウ　実施者の連携及び安全管理

（2）採点方法等

ア　採点者

採点者は、消火器操法２人、屋内消火栓操法３人とし、消火器操法審査表及び屋内消火栓操法審査表（以下「審査表」という。）に基づき採点する。また、採点者のうち２人を計測員とし所要時間を計測する。

イ　採点の集計

採点は減点方式及び加点方式による併合方式とし、各操法の採点表を基に総合得点を求める。

ウ　所要時間

（ア）所要時間は、秒単位で操作開始の合図から消火までの間を計測する。

なお、消火とは２箇所目の的が倒れ接地した時点をいう。

（イ）２人の計測員の平均値から所要時間を求める。

（ウ）基準となる所要時間（以下「基準所要時間」という。）は、消火器操法を４５秒、屋内消火栓操法を６０秒とし、所要時間の小数点以下を四捨五入した値から基準所要時間を減じて得た秒数を所要時間減点数とする。ただし、所要時間が基準所要時間以内であり、かつ減点がない場合は、１秒につき１点を加点するものとする。

（3）順位

ア　順位の決定

採点総括表による総合得点の多いものを上位とする。

イ　同点時の順位

総合得点が同点の場合は、所要時間が少ないものを上位とする。

（4）競技の事前準備

屋内消火栓操法に参加するチームは、競技の開始前にあらかじめ１号消火栓箱へ使

用ホース等の設定を行なうものとする。ただし、事務局に設定を一任する場合は、この限りでない。なお、この場合において競技中にホースの結合部が離脱する等のトラブルが発生した場合においても減点対象とする。

（５）異議申立て

審査及び採点の内容に関して、参加団体及び参加者は異議申立てをすることができない。

【消火器操法】

1　概要

（１）消火器操法は、指揮者及び消火者の２人（以下「実施者」という。）をもって隊を編成する。

（２）ピストル１声を操作開始の合図とする。

（３）コース白線枠を建物内壁と想定し、実施者は白線枠外で活動してはならない。

（４）採点者は、各隊員の集合から解散までの規律及び模擬火災を消火するまでの行動を採点する。

（５）消火器は、訓練用水消火器を使用する。

2　競技要領

（１）集合から開始まで

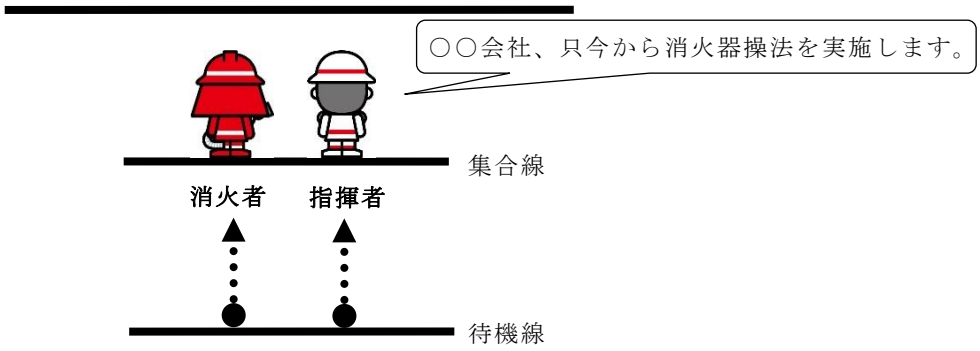
実施者は、整列休めの姿勢で待機線にかかとを合わせて待機する。このとき、指揮者を基準に自己整頓する。

審査長の「集まれ」の号令により、整列休めの姿勢から気をつけをし、両手を腰に上げて駆け足で左足から１歩目を踏み出し、３歩目でかかとを集合線に合わせて集合する。以後、整頓は指揮者を基準に自己整頓とする。

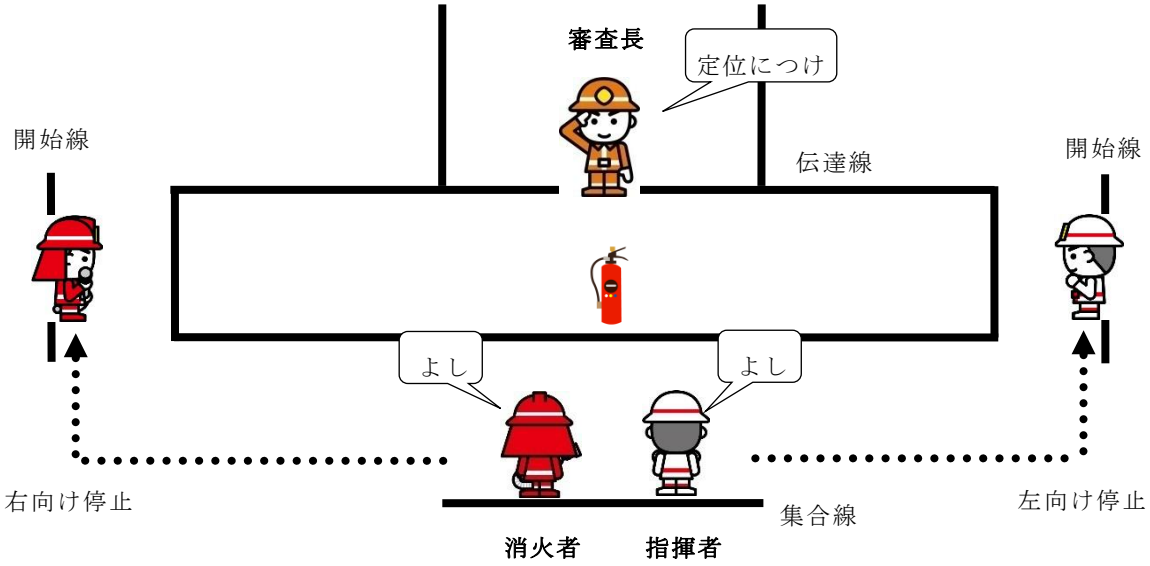
指揮者は審査長に敬礼をした後、「○○会社、只今から消火器操法を実施します。」と消火器操法開始の申告をする。

審査長の「よし」の呼称後、指揮者は審査長に敬礼する。



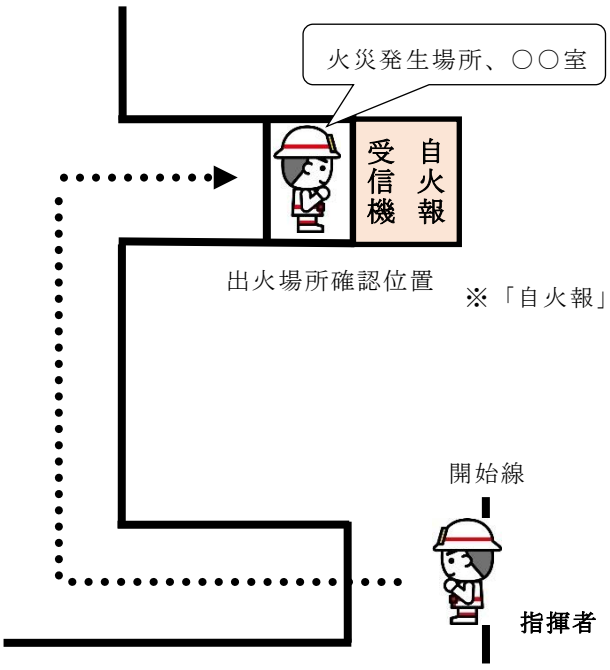


審査長の「定位につけ」の号令で、実施者は「よし」と呼称し、指揮者は右向け右、消火者は左向け左をして両手を腰に上げ、駆け足で左足から１歩目を踏み出し開始線に向かう。この時コース外を進み、指揮者は左向け停止、消火者は右向け停止により開始線につき、互いに向き合う。



（２）指揮者操作要領

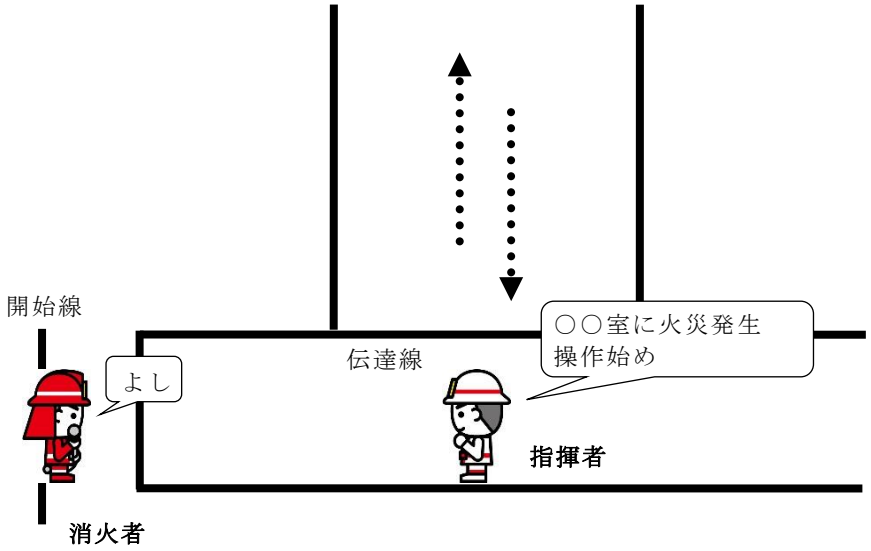
指揮者は操作開始の合図（ピストル１声）で、開始線からコース内を通り駆け足で出火場所確認位置に至り、自動火災報知設備の受信機で出火場所を確認し、「火災発生場所、○○室」と指差し呼称する。



※「自火報」とは、「自動火災報知設備」のことをいう。

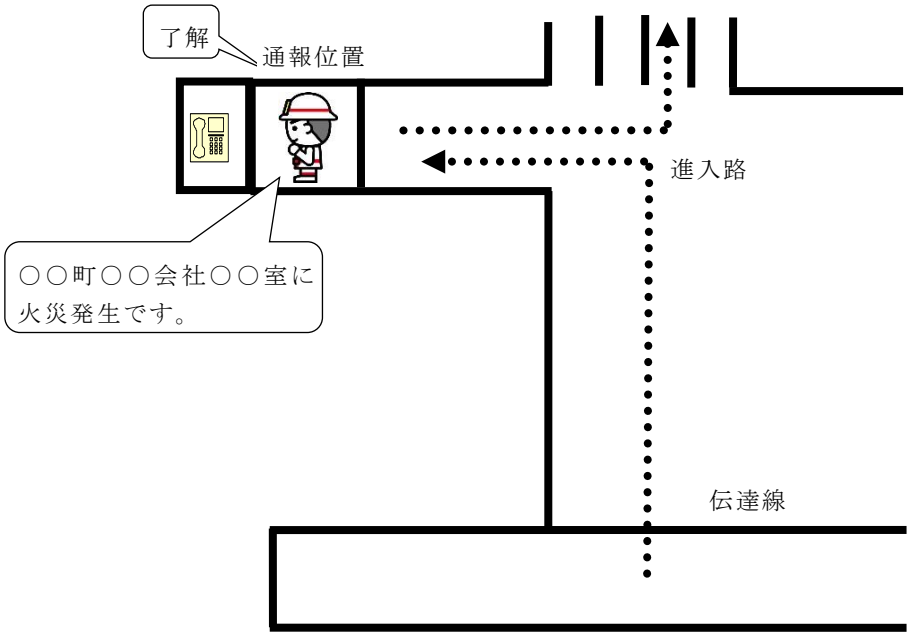
指揮者は回れ右をして駆け足でコース内を進み、伝達線を越えてから右向け停止し、消火者に向き合い、「○○室に火災発生」と伝達する。

さらに、「操作始め」と号令し、消火者の「よし」の呼称後、右向け右をして駆け足で通報位置に向かう。

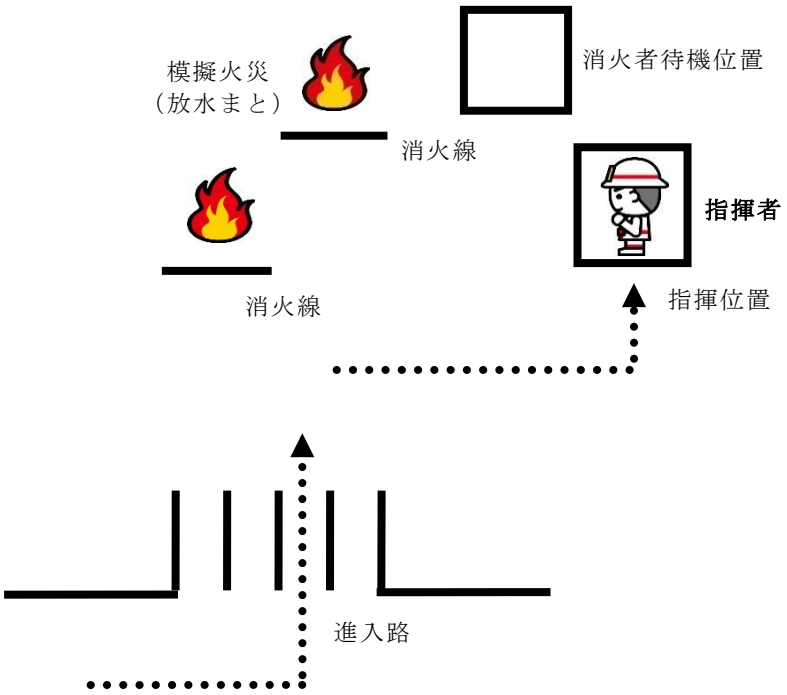


指揮者は駆け足で通報位置に至り、「○○町○○会社○○室に火災発生です。」と１１９番通報する。（出火場所は、各競技実施事業所の住所及び名称とする。）

指揮者は受信者の「了解」の応答を聞いたならば受話器を置き、回れ右をして駆け足で進入路から指揮位置に向かう。

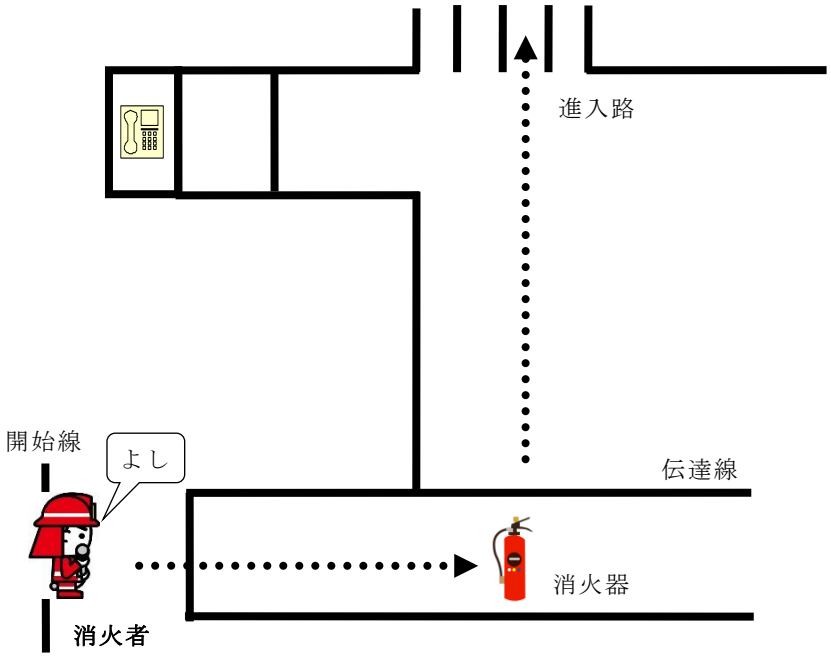


指揮者は指揮位置に左向け停止し、消火作業を監視する。



（３）消火者操作要領

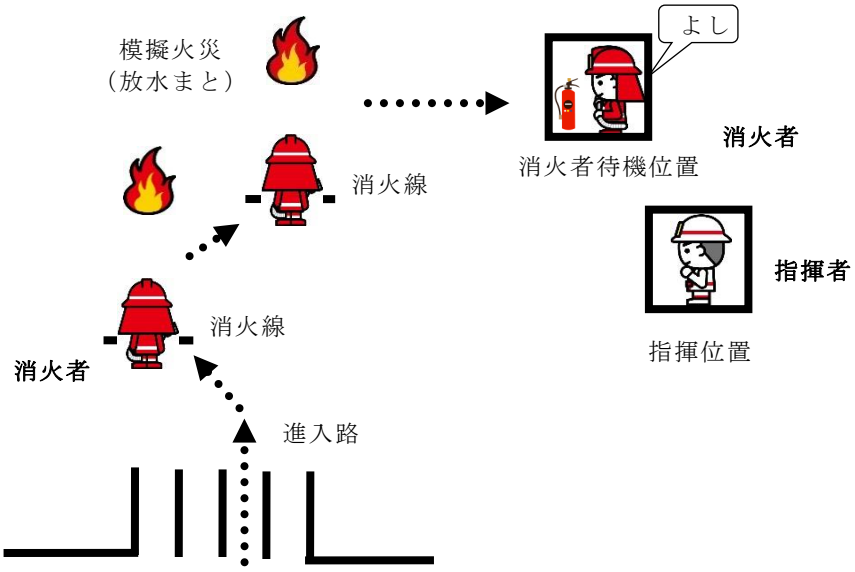
消火者は指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」と呼称した後、開始線から駆け足で進み、消火器を両手で持ち、指示された出火場所進入路を通り消火線につく。



消火者は進入路を通過した後、消火器で２箇所の模擬火災を順次迅速かつ確実に消火する。(放水まとを倒す。)

このとき消火線を踏まず、また、踏み越えることなく消火器を操作する。

消火者は、模擬火災を消火後、消火者待機位置に左向け停止し、消火器を置き「よし」と呼称し、模擬火災側を向き不動の姿勢で待機する。



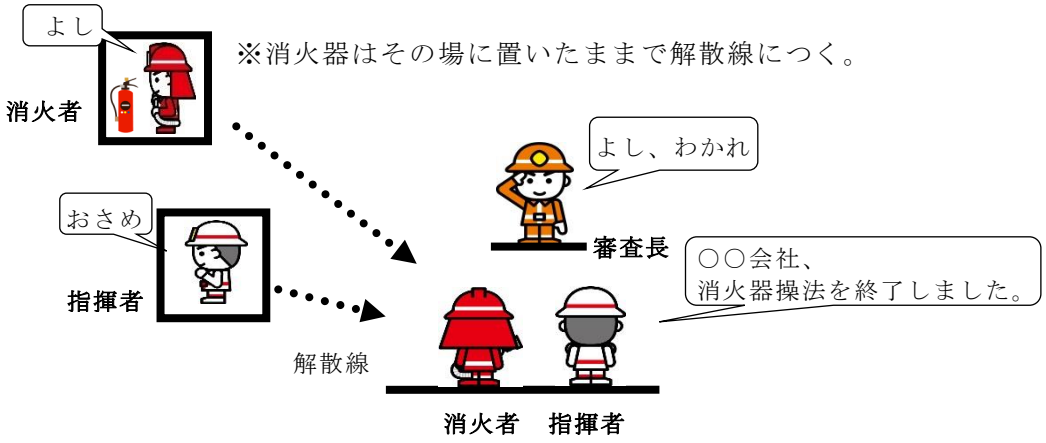
（４） 終了、解散

指揮者は、審査長のおさめの合図（警笛２声）を受け、「おさめ」と号令し、左向け左をして駆け足で解散線に進み左向け停止で解散線につく。

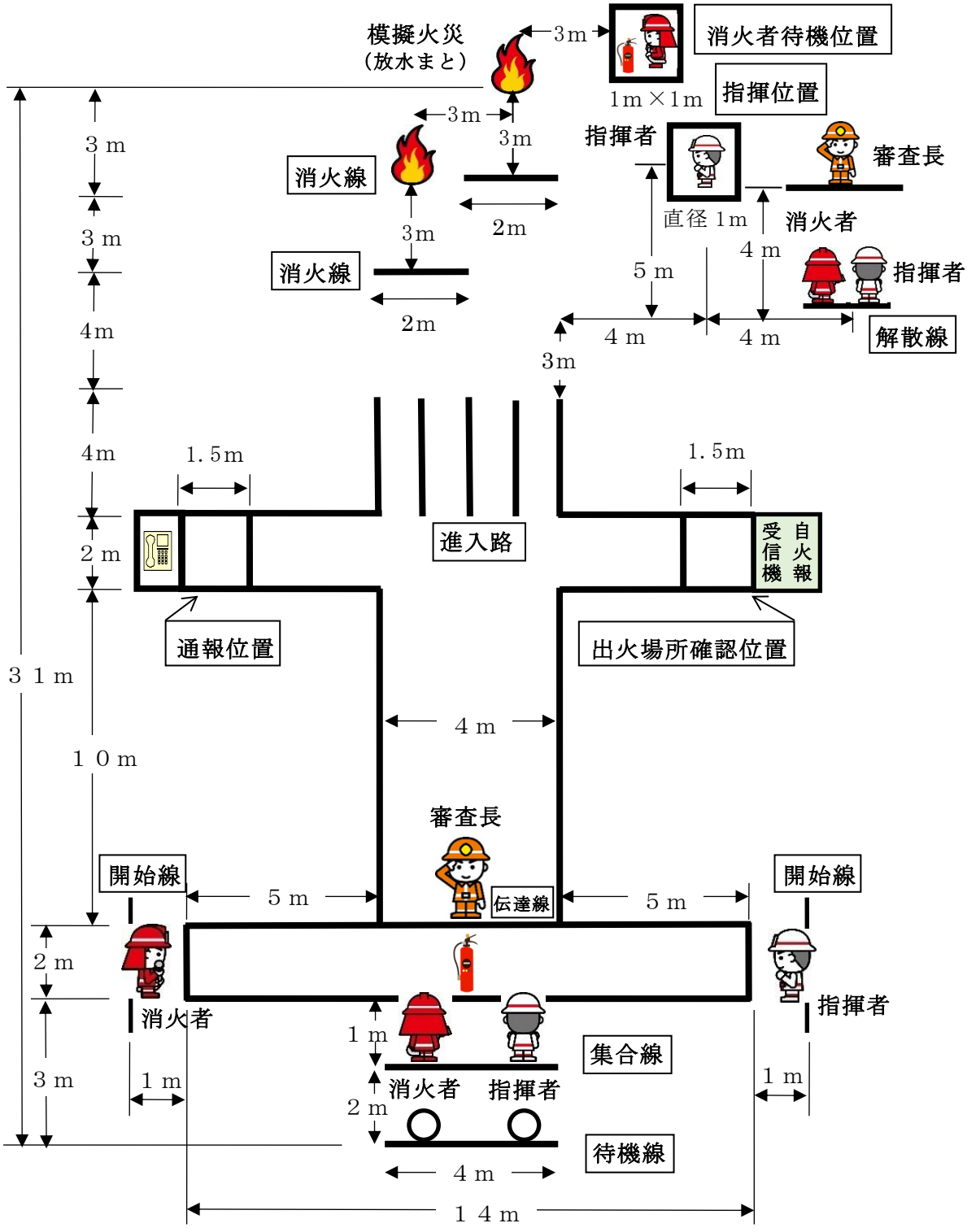
消火者は、指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」と呼称し、左向け左をして駆け足で解散線に進み左向け停止で解散線につく。このとき、指揮者を基準に自己整頓する。

指揮者は、審査長に敬礼し、「○○会社、消火器操法を終了しました。」と消火器操法終了の報告をし、実施者は審査長の「よし、わかれ」の号令で審査長に敬礼する。

指揮者の「右向け右、駆け足進め」の号令により、実施者は退場する。



消火器操法競技コース図



※「自火報受信機」とは「自動火災報知設備受信機」のことをいう。

消火器操法指揮者審査表　　（男子の部／女子の部）

競技実施団体名		審査員氏名	

	審　査　項　目	確認	減点数
1	集合、開始時の士気、規律に欠ける。	□	1
2	操作開始合図（ピストル音）の前に動く。	□	1
3	出火場所確認位置で出火場所を確認しない。	□	1
4	出火場所確認時に「火災発生場所、○○室」の指差し呼称がない。	□	1
5	出火場所を消火者に知らせない。	□	1
6	出火場所を呼称するときに伝達線を越えていない。	□	1
7	消火者に対して「操作始め」の号令をしない。	□	1
8	消火者の「よし」の呼称前に通報場所に向かう。	□	1
9	正確な１１９番通報をしない。	□	1
１０	競技コースを誤ったにも関わらず、そのまま競技を続ける。	□	1
１１	審査長のおさめの合図を受け「おさめ」の号令をしない。	□	1
１２	「おさめ」の号令の後、左向け左をしないで解散線に向かう。	□	1
１３	競技中の士気、規律に欠ける。	□	1
１４	その他（任務分担外操作、転倒、不必要な呼称）	□	各１
指揮者減点合計			点

消火器操法消火者審査表　　（男子の部／女子の部）

競技実施団体名		審査員氏名	

	審　査　項　目	確認	減点数
1	集合、開始時の士気、規律に欠ける。	□	1
2	指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」の呼称がない。	□	1
3	消火器を持たずに伝達線を越える。	□	1
4	競技コースを誤ったにも関わらず、そのまま競技を続ける。	□	1
5	進入路を通過する前に消火器を操作する。	□	1
6	消火線を踏む、または、踏み越して消火する。	□	1
7	模擬火災の消火が不十分である。（放水まとが全て倒れない。）	□	1
8	消火後、所定の位置に移動しない。	□	1
9	消火器を所定の位置に置かない。	□	1
１０	指揮者の「おさめ」の号令の前に移動する。	□	1
１１	指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」の呼称がない。	□	1
１２	指揮者の「おさめ」の号令の後、左向け左をしないで解散線に向かう。	□	1
１３	競技中の士気、規律に欠ける。	□	1
１４	その他（任務分担外操作、転倒、消火器の落下、不必要な呼称）	□	各１
消火者減点合計			点

消 火 器 操 法 採 点 表

競技実施団体名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　（男子の部／女子の部）

1　計時記録表

計時は、操作開始（ピストル音）の合図から消火者が模擬火災（放水まと）を全て（２箇所）消火した時点までとする。

基準所要時間を４５秒とし、１秒超過する毎に減点数１点を加算する。

基準所要時間以内であり、かつ減点がない場合は、１秒につき１点を加算する。

所要時間⑴	秒	計測員氏名⑴	
所要時間⑵	秒	計測員氏名⑵	
所要時間減点数	点	所要時間加点数	点

2　採点総括表

指揮者減点数　消火者減点数　所要時間減点数

１００点－（　　点＋　　点＋　　点）

所要時間加点数

＋　　点

＝　**総合得点**　　点

備考	

【屋内消火栓操法】

1　概要

（1） 屋内消火栓操法は、「指揮者、操作員（１番員・２番員)」の３人（以下「実施者」という。）をもって隊を編成する。

（2） ピストル１声を操作開始の合図とする。

（3） コース白線枠を建物内壁と想定し、実施者は白線枠外で活動してはならない。

（4） 採点者は、実施者の集合から解散までの規律及び模擬火災を消火するまでの行動を採点する。

（5）審査長は、放水まとが２箇所とも倒れたことを確認し、「放水やめ」の合図（警笛１声）をする。

（6） ４０ｍｍホースを２本、筒先口径は１３ｍｍを使用し、水圧０．３５ＭＰａで放水する。

2　競技要領

（1）集合から開始まで

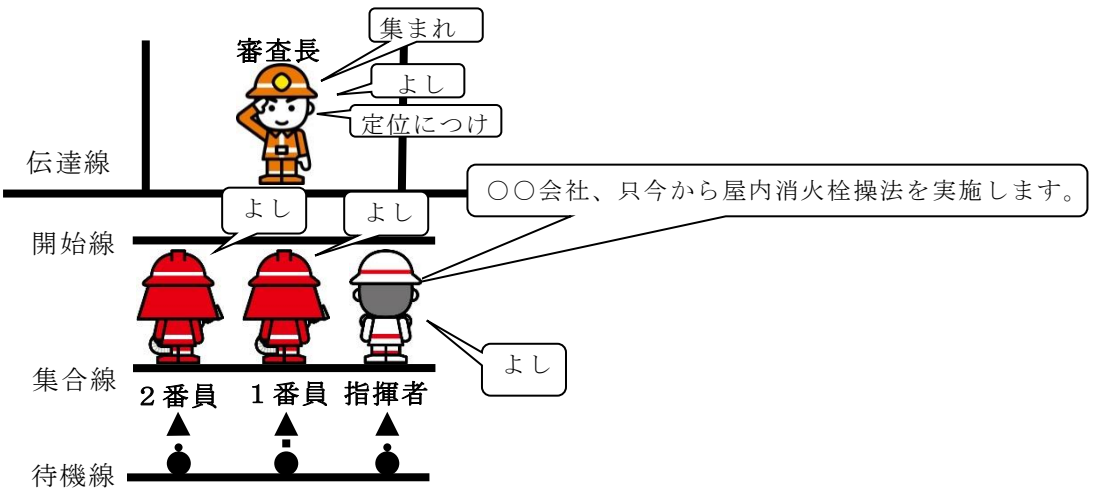
実施者は、整列休めの姿勢で待機線にかかとを合わせて待機する。このとき、指揮者を基準に自己整頓する。

審査長の「集まれ」の号令により、整列休めの姿勢から気をつけをし、両手を腰に上げて駆け足で左足から１歩目を踏み出し、３歩目でかかとを集合線に合わせて集合する。以後、整頓は指揮者を基準に自己整頓とする。

指揮者は審査長に敬礼をした後、「○○会社、只今から屋内消火栓操法を実施します。」と屋内消火栓操法開始の申告をする。

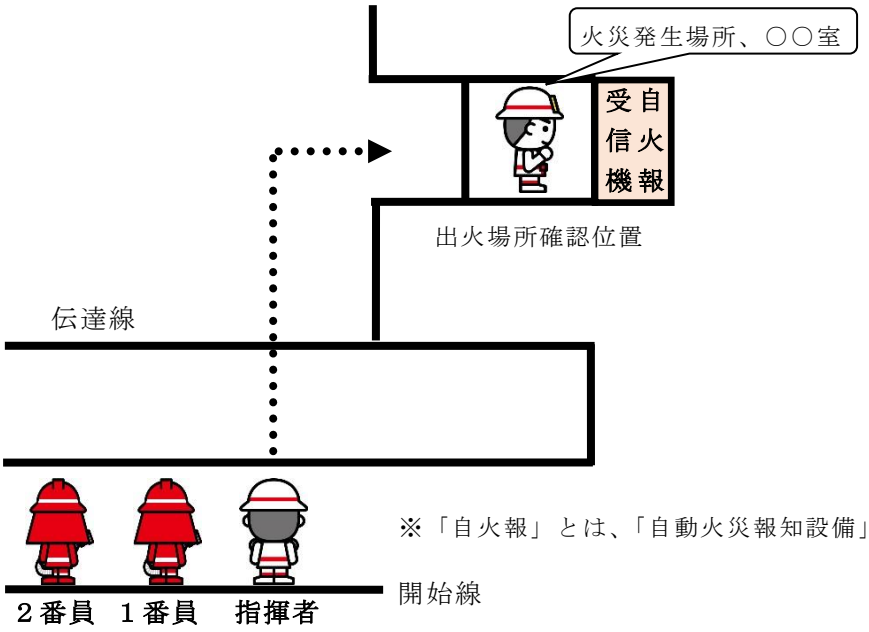
審査長の「よし」の呼称後、指揮者は審査長に敬礼する。

審査長の「定位につけ」の号令で、実施者は「よし」と呼称し、両手を腰に上げ、駆け足で左足から１歩目を踏み出し３歩目で開始線につく。



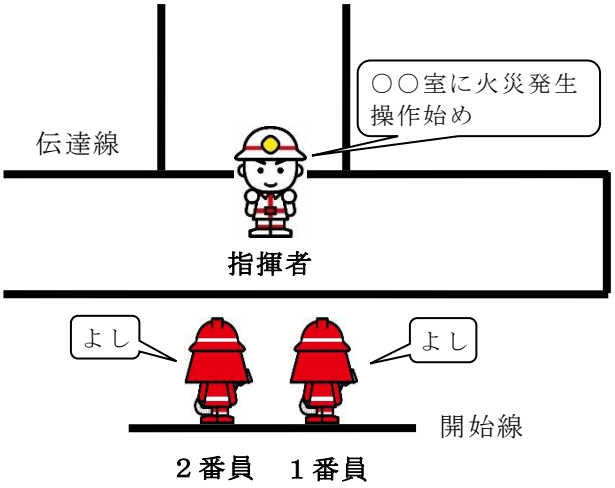
（２） 指揮者操作要領

指揮者は操作開始の合図（ピストル１声）で、開始線からコース内を通り駆け足で出火場所確認位置に至り、自動火災報知設備の受信機で出火場所を確認し、「火災発生場所、○○室」と指差し呼称する。



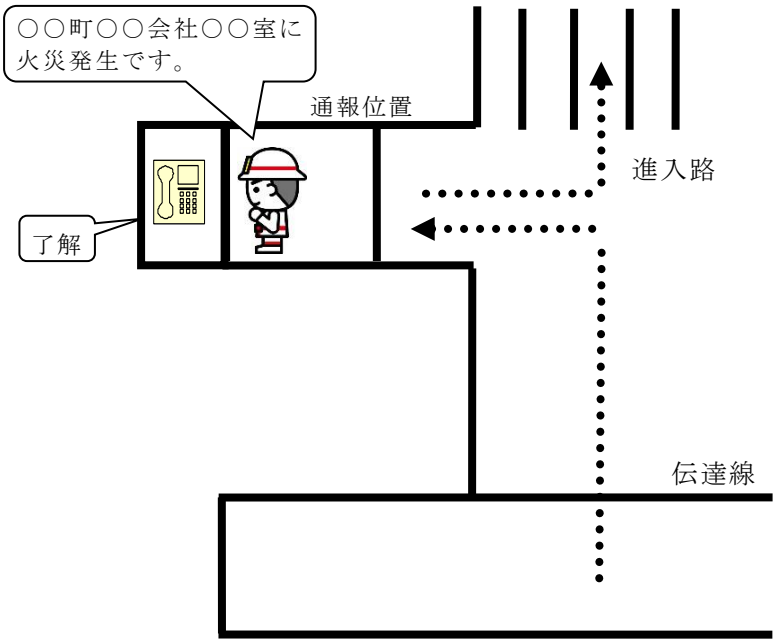
指揮者は回れ右をして駆け足でコース内を進み、伝達線を越えてから操作員に向き合い、「○○室に火災発生」と伝達する。

さらに、「操作始め」と号令し、操作員の「よし」の呼称後、回れ右をして駆け足で通報位置に向かう。

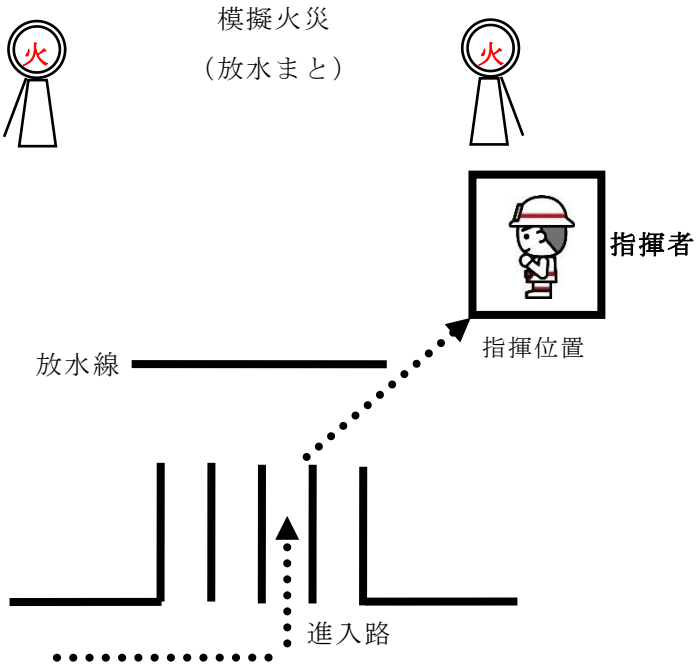


指揮者は駆け足で通報位置に至り、「○○町○○会社○○室に火災発生です。」と１１９番通報する。（出火場所は、各競技実施事業所の住所及び名称とする。）

指揮者は受信者の「了解」の応答を聞いたならば受話器を置き、回れ右をして駆け足で進入路から指揮位置に向かう。

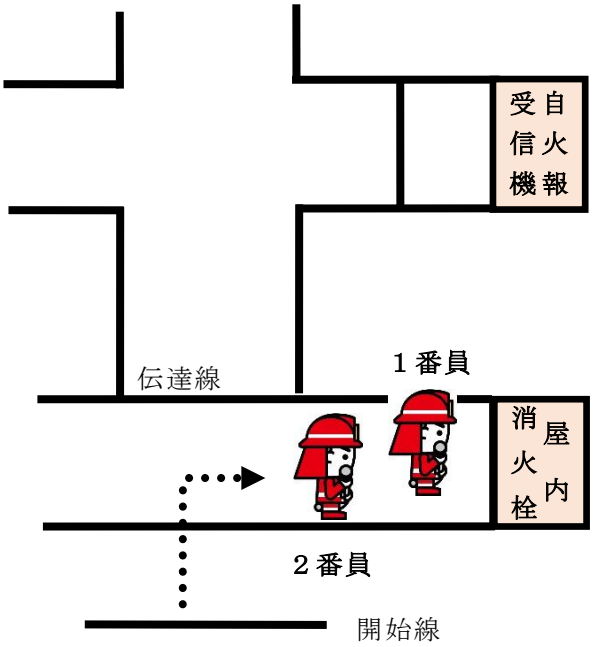


指揮者は指揮位置に左回り込み停止し、消火作業を監視する。

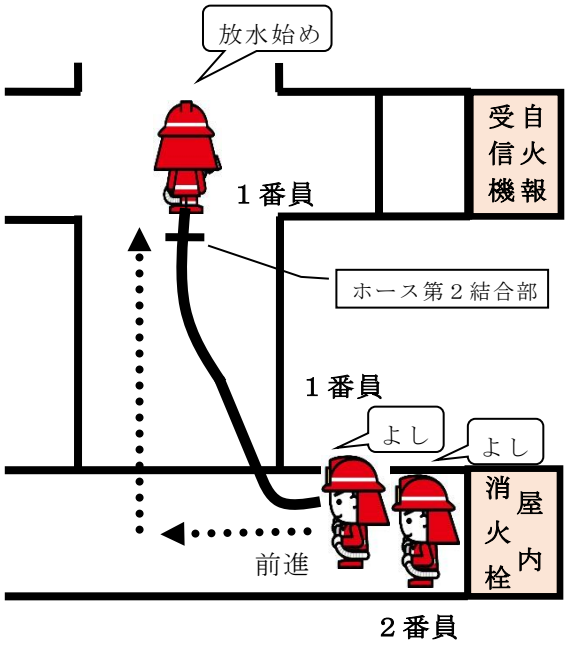


（３） １番員操作要領

１番員は指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」と呼称した後、開始線から駆け足で進み、２番員とともに屋内消火栓の前に移動する。１番員は屋内消火栓の扉を開いて筒先と第２ホースを持つ。

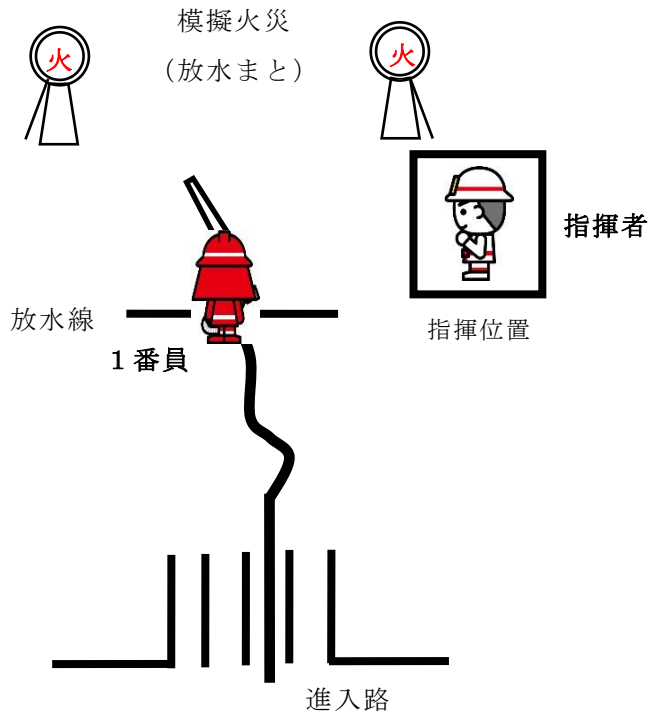


１番員は２番員の「よし」の呼称の後に「よし」と復唱、指示された出火場所進入路を目指し、ホースを延長しながら火点に向かい前進する。このとき、ホース第２結合部が着地した後、「放水始め」と呼称する。



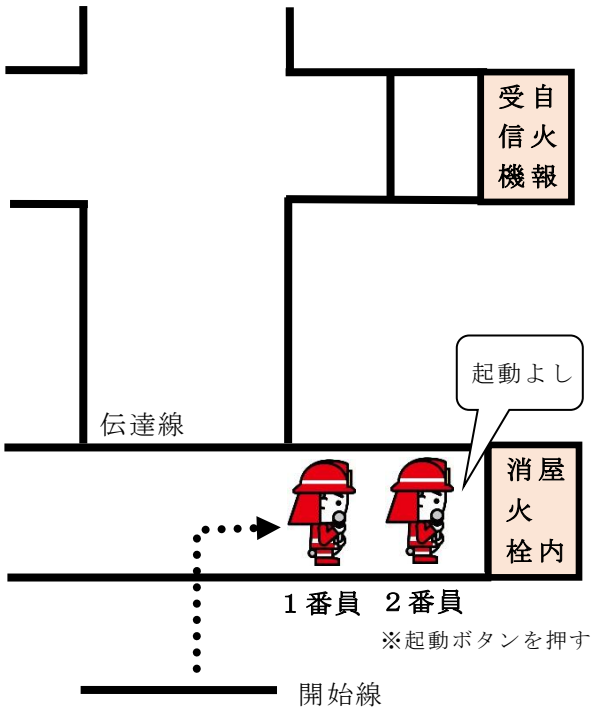
※２番員の「よし」の呼称の後、
１番員は「よし」と復唱し前進する。

１番員は２箇所の模擬火災を順次迅速かつ確実に消火する。（放水まとを倒す。）このとき筒先を右腰に付け放水線を踏まず、また、踏み越えることなく放水する。

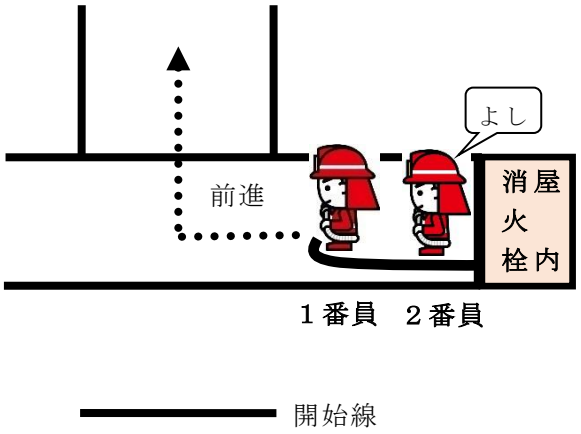


（４） ２番員操作要領

２番員は指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」と呼称した後、開始線から駆け足で進み、１番員とともに屋内消火栓の前に移動したならば、屋内消火栓の起動ボタンを押し、「起動よし」と呼称する。

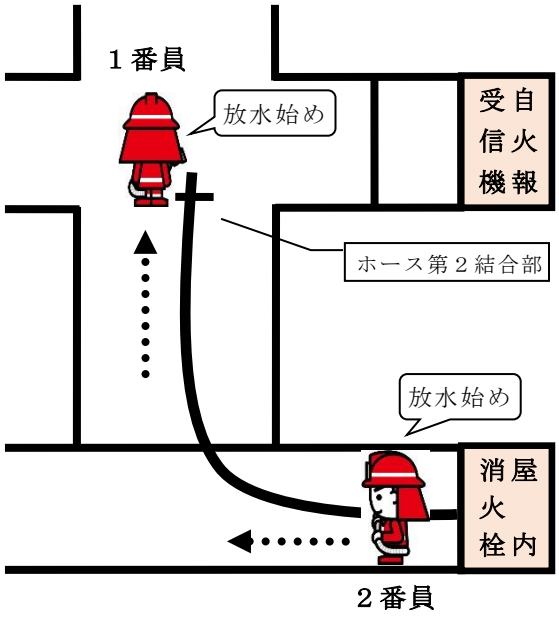


２番員は、第１ホースを取り出し右脇に抱え、「よし」と呼称し、１番員の「よし」の復唱を確認後、１番員とともにホースを延長する。



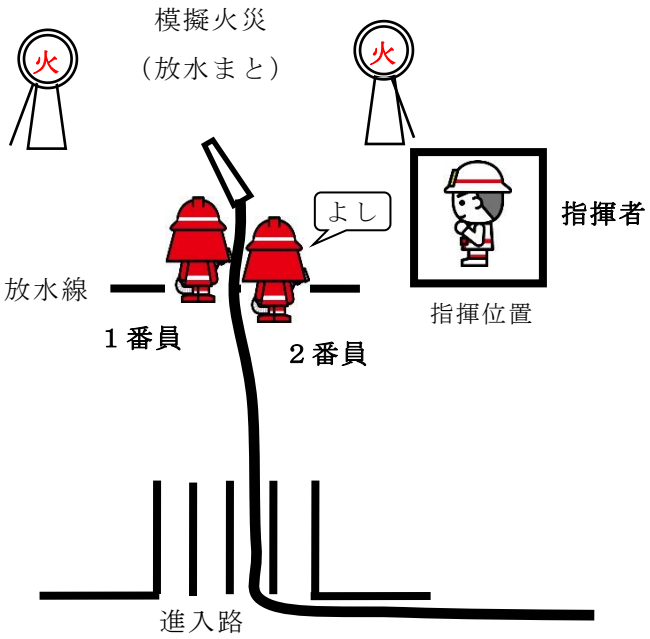
２番員は、１番員の「放水始め」の号令後、「放水始め」と復唱し、屋内消火栓の開閉弁を徐々に開放し全開にする。

２番員は放水を確認したならば、延長ホースを整理しながら前進する。



※開閉弁を全開にして、延長ホースを整理しながら前進する。

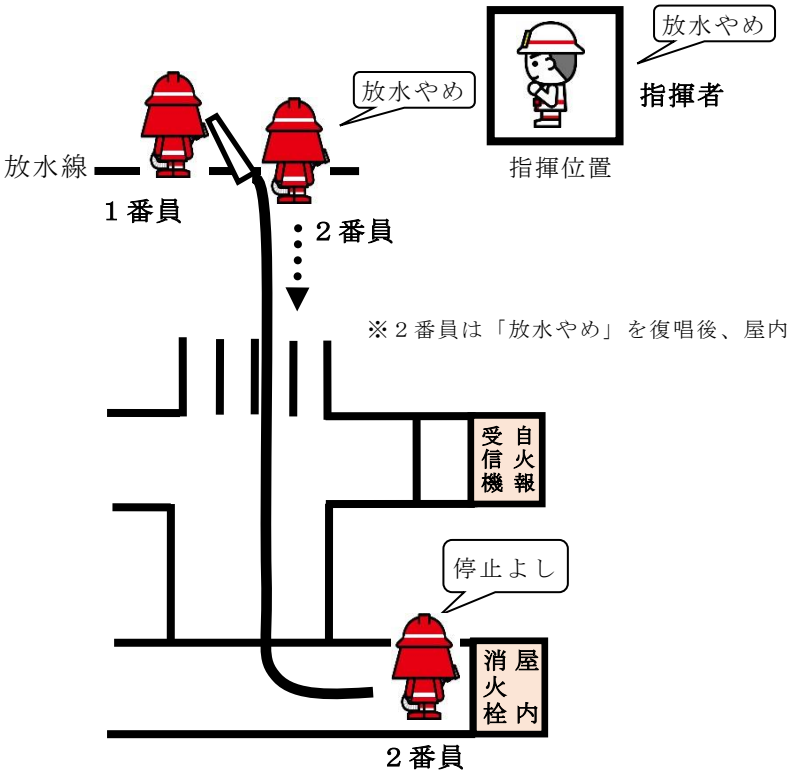
２番員は１番員の右後方に移動し、ホースを腰に保持して１番員の放水補助姿勢をとり、「よし」と呼称する。



（５） 放水やめ、おさめ

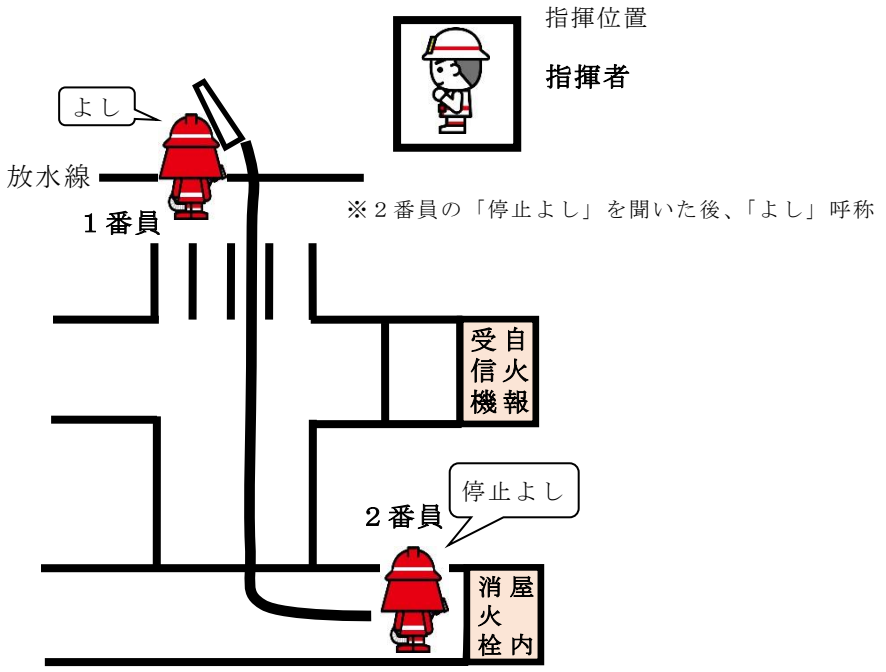
指揮者は、審査長の「放水やめ」の合図により「放水やめ」と号令する。

２番員は、指揮者の「放水やめ」を復唱し、ホースを放しホースに沿って屋内消火栓に戻り、開閉弁を閉めて起動ボタンを元に戻したならば「停止よし」と呼称し、屋内消火栓の前で姿勢を正す。



※開閉弁を閉め起動ボタンを元に戻し、「停止よし」と呼称する。

１番員は、２番員が消火栓の起動ボタンを元に戻す操作が終わった「停止よし」の呼称に「よし」と呼称し、筒先の先端を右手で持ち左足を引きつけ姿勢を正す。

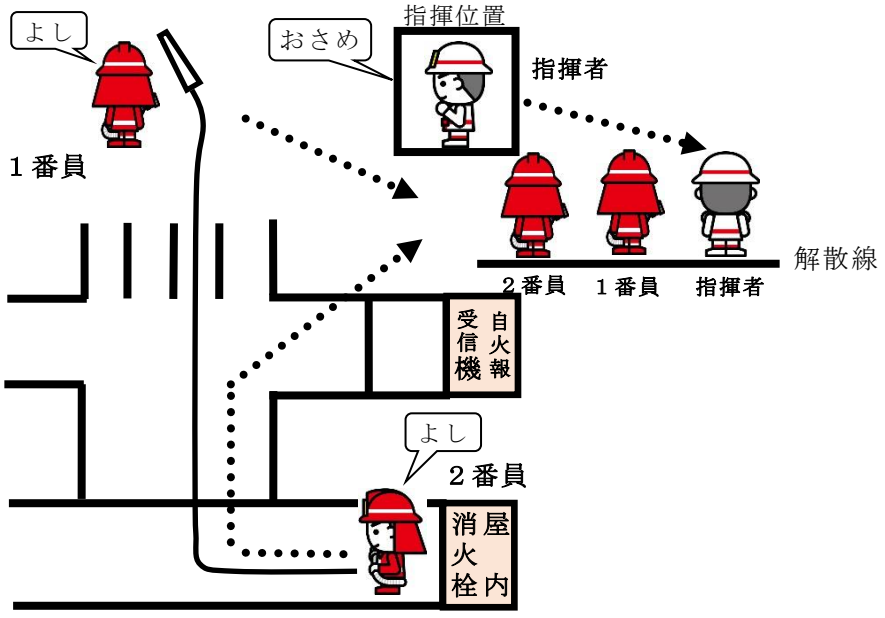


（６） 終了、解散

指揮者は、審査長のおさめの合図（警笛２声）を受け、「おさめ」と号令し、左向け左をして駆け足で解散線に進み左向け停止で解散線につく。

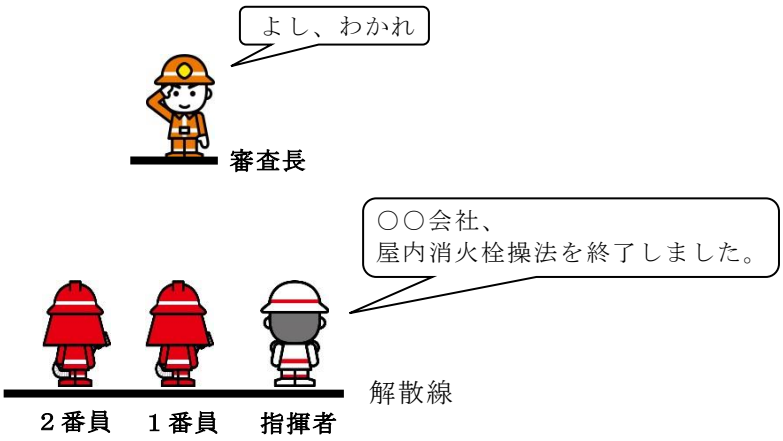
１番員は、指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」と呼称し、筒先を前方に向けてその場に置き、姿勢を正した後、右向け右をして駆け足で解散線に進み左向け停止で解散線につく。このとき、指揮者を基準に自己整頓する。

２番員は、指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」と呼称し、駆け足でコース内を通り解散線につく。

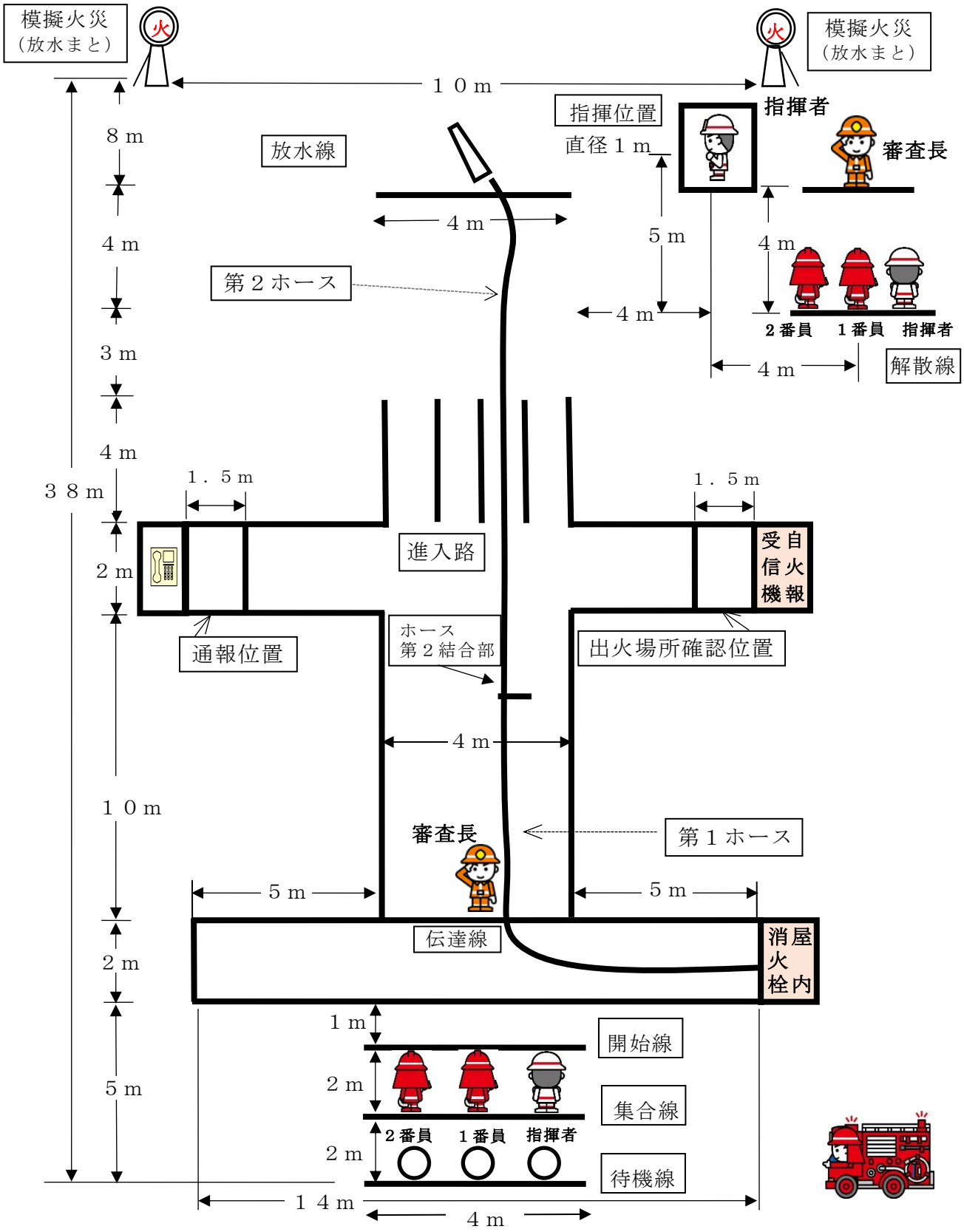


指揮者は審査長に敬礼し、「○○会社、屋内消火栓操法を終了しました。」と屋内消火栓操法終了の報告をし、実施者は審査長の「よし、わかれ」の号令で審査長に敬礼する。

指揮者の「右向け右、駆け足進め」の号令により、実施者は退場する。



屋内消火栓操法競技コース図



※「自火報受信機」とは「自動火災報知設備受信機」のことをいう。

屋内消火栓操法指揮者審査表　　（男子の部／女子の部）

競技実施団体名		審査員氏名	

	審　査　項　目	確認	減点数
1	集合、開始時の士気、規律に欠ける。	□	1
2	操作開始合図（ピストル音）の前に動く。	□	1
3	出火場所確認位置で出火場所を確認しない。	□	1
4	出火場所確認時に「火災発生場所、○○室」の指差し呼称がない。	□	1
5	出火場所を操作員に知らせない。	□	1
6	出火場所を呼称するときに伝達線を越えていない。	□	1
7	操作員に対して「操作始め」の号令をしない。	□	1
8	操作員の「よし」の呼称前に通報場所に向かう。	□	1
9	正確な１１９番通報をしない。	□	1
１０	競技コースを誤ったにも関わらず、そのまま競技を続ける。	□	1
１１	審査長のおさめの合図を受け「おさめ」の号令をしない。	□	1
１２	「おさめ」の号令の後、左向け左をしないで解散線に向かう。	□	1
１３	競技中の士気、規律に欠ける。	□	1
１４	その他（任務分担外操作、転倒、不必要な呼称、ホースの踏みつけ）	□	各１
指揮者減点合計			点

屋内消火栓操法１番員審査表　　（男子の部／女子の部）

競技実施団体名		審査員氏名	

	審　査　項　目	確認	減点数
1	集合、開始時の士気、規律に欠ける。	□	1
2	指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」の呼称ない。	□	1
3	ホース延長時、２番員の「よし」の呼称に対して、「よし」の復唱がない。	□	1
4	競技コースを誤ったにも関わらず、そのまま競技を続ける。	□	1
5	第２結合部が着地する前に「放水始め」を呼称する。	□	1
6	「放水始め」の呼称がない。	□	1
7	結合金具の接続が不完全なため接続部が外れる。	□	1
8	放水線を踏む、または、踏み越して消火する。	□	1
9	模擬火災の消火が不十分である。（放水まとが全て倒れない。）	□	1
１０	指揮者の「おさめ」の号令の前に移動する。	□	1
１１	指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」の呼称がない。	□	1
１２	指揮者の「おさめ」の号令の後、右向け右をしないで解散線に向かう。	□	1
１３	競技中の士気、規律に欠ける。	□	1
１４	その他（任務分担外操作、転倒、不必要な呼称、ホースの踏みつけ、器具の落下）	□	各１
１番員減点合計			点

屋内消火栓操法２番員審査表　　（男子の部／女子の部）

競技実施団体名		審査員氏名	

	審　査　項　目	確認	減点数
1	集合、開始時の士気、規律に欠ける。	□	1
2	指揮者の「操作始め」の号令に対して、「よし」の呼称がない。	□	1
3	屋内消火栓の起動ボタンを押して、「起動よし」の呼称がない。	□	1
4	第１ホースを右脇に抱え、「よし」と呼称し、１番員の「よし」の復唱の前に移動する。	□	1
5	１番員の「放水始め」の呼称に対して、「放水始め」の復唱がない。	□	1
6	１番員の「放水始め」の呼称の前に開閉弁を操作する。	□	1
7	指揮者の「放水やめ」の号令に対して、「放水やめ」の復唱がない。	□	1
8	消火後、所定の位置に移動しない。	□	1
9	屋内消火栓の開閉弁の操作が、確実に行われない。	□	1
１０	屋内消火栓の起動ボタンを戻して、「停止よし」の呼称がない。	□	1
１１	指揮者の「おさめ」の号令の前に移動する。	□	1
１２	指揮者の「おさめ」の号令に対して、「よし」の呼称がない。	□	1
１３	指揮者の「おさめ」の号令の後、コース内を通らず解散線に向かう。	□	1
１４	競技中の士気、規律に欠ける。	□	1
１５	その他（任務分担外操作、転倒、不必要な呼称、ホースの踏みつけ）	□	各１
２番員減点合計			点

屋 内 消 火 栓 操 法 採 点 表

競技実施団体名：　　（男子の部／女子の部）

1　計時記録表

計時は、操作開始（ピストル音）の合図から１番員が模擬火災（放水まと）を全て（２箇所）消火した時点までとする。

基準所要時間を６０秒とし、１秒超過する毎に減点数１点を加算する。

基準所要時間以内であり、かつ減点がない場合は、１秒につき１点を加算する。

所要時間⑴	秒	計測員氏名⑴	
所要時間⑵	秒	計測員氏名⑵	
所要時間減点数	点	所要時間加点数	点

2　採点総括表

指揮者減点数　１番員減点数　２番員減点数　所要時間減点数

１００点－（　　点＋　　点＋　　点＋　　点）

所要時間加点数

＋　　点

＝**総合得点**　　点

備考	

附則

この要領は、平成２７年３月１日から施行する。

附則

この要領は、平成３０年４月１日から施行する。